

# 納涼晚餐会を開催

## 火曜午餐会 8月例会

火曜午餐会の8月例会は、日ごろの研修・研鑽の会を離れて一服の涼を、と第1火曜日の4日夕刻から真夏の恒例・納涼晚餐会として開催された。例年になく長い梅雨、そして梅雨明け後は連日の猛暑の中、場所を奈良ホテル・大和の間に移し、午餐会会員、ご同伴者を合わせ40名が参集。ゲストにはピアニストで作曲家の榎原明子さんのピアノ生演奏を楽しんだ。

今年の会場は奈良市高畑町の奈良ホテル。まず挨拶に立った菊池会長は参加者に謝辞を述べ「今年にはオリンピック・パラリンピック開催の年で日本全国、奈良県も非常に盛り上がる一年になるはずでしたが、コロナウイルスの年になってしまいました。今後どのような状況になるかわかりませんが、第二波、第三波を懸念しなくてはなりません。人間の思う通りにはいけません、自然の力、本来の無常というのが感じられる。このような状況の中、全身がんになられた樹木希林さんのベストセラー『一切なりゆき』に感銘を受けました。やはり成り行きに従ってやっていかなくてはなりません。希林さんも病とともに楽しみながら大往生されました。このコロナウイルスで一喜一憂しても仕方がありません。成り行きに任せて楽しむことも必要になるのではと思います。本日の演奏は、奈良にご縁があります榎原さんに『奈良の風景と音楽』をテーマに生演奏をしていただきます。皆様と一緒に楽しみたいと思います」と述べた。

続いて奈良市出身のピアニストで作曲家の榎原明子さんが登場。オープニングに『シカは神様』を披露され、「奈良で生まれ奈良で育ち奈良を愛する一人の音楽家として、奈良の音楽とはどんなものなのだろうといろいろ今まで表現してきました。そして海外公演では韓国で東アジア文化都市のイベ

ントに出演させていただき、奈良県主催のミュージックフェストのオープニングでは、東大寺大仏殿で大仏様の蓮の上で演奏させていただきました。その時は特別に声明と音楽のコラボレーションをさせていただくなど、いろんな音楽で奈良を表現してきました」。

二曲目は、東大寺の鐘の音とピアノとのコラボレーションに挑戦された『Reverberation』。そして三曲目は、百人一首の中の一句にフレーズを付けて作った曲『いにしへの』を演奏され、前半は奈良をイメージした曲を披露された。

続いて夏の季節に合った曲『夏の思い出』をはじめとしたメドレーを披露。

そして「チェロとピアノで良く演奏される曲で、ピアノは水面下の白鳥の足を表し、チェロは美しい白鳥の泳ぐ姿を描いている。今日はピアノのみですので美しい白鳥の姿のみをアレンジした曲」『白鳥』を披露。

そして、『魅惑の宵』『魅惑のワルツ』を披露。二曲とも映画の主題歌で、『魅惑のワルツ』は、2018年に近鉄特急しまかぜのテレビCM『語りたくなる、伊勢志摩2018春』でアレンジされた曲。

同じくCM曲として作曲され、2009年に収録した『ひとつだけ』を披露。「献血センターで流す映像で、白血病の女の子が献血によって命を救われて今も元気に生



きているドキュメンタリーです」。

そして『雨上がり』を披露。「2018年に中野裕之監督の映画『PEACE NIPPON』が全国で上映されていました。日本は災害が多く、どんどん美しい景色が無くなって、次の世代に美しい日本を残せないと7年間日本各地を転々と回られ撮りためられた映像をまとめられた映画です。その中で吉野の桜も撮っておられて、その場面でわたしの『雨上がり』という曲を使っていたらいいな」と述べた。

最後の演奏は「NHKの阪神淡路大震災報道特番『震災15年』のために作曲をした曲。音楽家として音楽で何か人のお役に立てるような、ピアノを聴いて明日から元気になろうとか、癒しを感じていただけたらいいな」と日々演奏をしています」。

そんな思いの中作曲された『あの空の下で』の演奏で締めくくられた。

続いて食事会へ。副会長の箕輪氏は「コロナウイルス感染症が拡大している状況の中、納涼晚餐会を開催出来たこと嬉しく思います。長梅雨やコロナウイルスで気持ちが晴れない日々でしたが、榎原さんの爽やかで素晴らしい音色のピアノ演奏を聴かせていただき、心も身体も洗われ感謝いたします。今日ご参集頂きました皆様方の益々のご健勝と奈良県経済倶楽部の益々の発展、そしてなかなか終息しないコロナウイルスが1日でも早く終息することを祈念いたします」と、乾杯の音頭。

円卓を囲んでの食事では、和洋折衷のコース料理を堪能。

そして、この秋に発売される榎

原さんのCDの曲「秋麗」をバックに、奈良の奥山を榎原さん自らがドローン撮影・編集された映像『秋麗』が映し出され、真夏の夜のひと時、和気あいあいと盛り上がった納涼晚餐会は9時に幕を閉じた。

~~~~~  
【榎原明子さん】(ピアニスト・作曲家)奈良市出身。神戸大学発達科学部人間行動・表現学科卒業。Casa Verdi マスタークラス修了。演奏ジャンルは多岐に亘り、作編曲、即興、伝統芸能や民族音楽との共演など、日本人としてのピアノ表現・音楽表現を探究されておられる。歌や言葉・アートやその場の空気からインスピレーションを得て音を紡ぐ即興演奏なども手掛けておられる。多様なジャンルを軽やかに跳び越えながらも独自のタッチで奏でられる、流れるような、歌うような、情感豊かなピアノ、ピュアな音色で奏でられる物語のような作品は知らず知らずのうちに聴く人の心を潤し、空想の世界へと誘ってくれる。

日本音楽表現学会、日本音楽療法学会、奈良県音楽芸術協会、奈良市音楽協会会員。「ピアノで奈良を奏でる会」「奈良楽譜」「AMIDA LABEL」代表。「伝統の未来を見つめる会」役員。飛鳥応援大使を務められている。

